



かわらばん

市民皆消防

消防団長 大河原康行

自分達の街は自分達の手で守る。これは消防の基本理念であり、団のみならず住民一人一人が自覚し、全市民が消防人であっていただきたいと思ひます。

「常備消防を充実させれば消防団は無用である」という意見も聞きますが、消防の効率化だけでは代えられないものがあります。火災・消火の問題については常備消防が発達して行けば消防団に代わる事ができるかも知れません。しかし、初期消火・予防活動、山林火災・地震の時の非難誘導等地域に密着した活動ができるのは、市内全域から集められ普段から訓練をつんだ消防団員だと確信します。また、地域住民の協力があってこそ住みよい飯能市になるのだと思ひます。

消防団三七五名は一丸となつて期待に応えられるよう努力する所存です。これからもご支援・ご協力をお願い申し上げます。

がんばれ消防団

消防長 田中 博

毎年、どこかで起こる地震と噴火活動。そして、火災や風水害等。そんなとき、決まつて活躍を報道されるのが消防団です。災害に立ち向かう団員の姿は強い信頼に満ちています。

飯能消防団は、昭和二十二年八月一日結団し、市民生活の安全を守る防災機関として、火災の消火・大雨時の警戒など、市民の生命と財産の保全のため消防署と共同して活動しています。

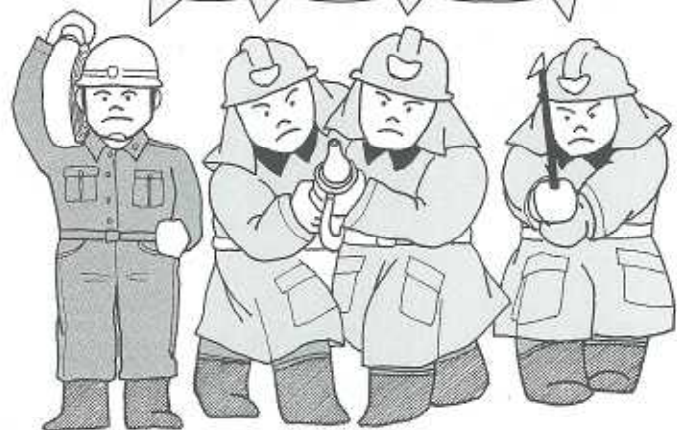
今、高齢化社会の中で、豊かなゆとりを求める社会は、安全が約束されなければなりません。市は将来にわたり、市民防災の要衝として防災センターを建設しています。これに応え消防団は、地域密着性の特性を生かし、施設の利用、防火防災の対話を広げ、きめ細かな火災予防運動を展開することを期待されます。地域防災リーダーの役割を担う消防団。ご躍進をお祈りします。



▲ 特別点検に出動する消防団員。平成5年12月1日 飯能第一小学校校庭。

まい何分団？

飯能は
わたしたちが守ります!!



第一分団 21名

私たちは、飯能地区の原町・前田・中山を担当しています。本年は地域住民の皆様は初期消火の大切さを知っていたために、消火器を使って火を消す体験をしていただきました。初めのうちはあわててしまう人が多く見られましたが、次第に消火姿が板についてきて、思わず勧誘したくなるような人もいました。「もしもの時にあわてずすみそうだ」との声をいただきました。

第二分団 24名

私たちは、飯能地区の二丁目・二丁目・柳原を担当しています。消防署との協力による防災活動をはじめ、地域への啓蒙活動も行なっています。最近では市民の皆様は消火器を使つての初期消火を体験していただきました。飯能祭では警備を担当し山車について交通整理を行なったりもしています。郷土愛護の精神であなたも消防団へジャンプ!

第三分団 33名

私たちは、飯能地区の三丁目・河原町・宮本町・大河原・本郷を担当しています。何と言っても持ち前の明るさとチームワークを売り物に住宅密集地から山林まで、愛する故郷を災害から守るため訓練に励んでいます。毎年研修旅行やゴルフコンペなどを開催して親睦を図っています。職業や年齢の枠を越えて、ピカイチのチームワークは磨きがかかる一方です。地域の皆さんご安心を!

第四分団 25名

私たちは、飯能地区の永田・小岩井・久須美・小瀬戸・永田台を担当しています。訓練などの出動のほか親睦旅行も実施しています。今年からは宿泊先でボーリング大会を開いたり、バギーに乗ったりして楽しみました。また伝統芸能の獅子舞に数名の団員が参加して地域の活性化に取り組んでいます。地区内に火災等が少ないのは地域の皆様の防災意識の賜物と感謝しています。

第五分団 40名

私たちは、南高麗地区を担当しています。岩淵から上直竹上分まで東西に細長くさまざまな顔を持っています。歳末警戒の夜、標高の最も高い細田地区に上がると、新宿の高層ビル群まで広がるすばらしい夜景を見ることができ、寒さを忘れるほどの美しさで、とくに新入団員は感動するようです。また青梅市の成木・小曾木地区の消防団とも交流を図り相互の防災に努めています。

飯能消防団役員

| | |
|-------|--------|
| 団長 | 大河原 康行 |
| 副団長 | 金子 堅三 |
| 本部分団長 | 小久保 勝弘 |
| 第一分団長 | 柿沼 敏夫 |
| 第二分団長 | 田淵 誠太郎 |
| 第三分団長 | 加藤 順徳 |
| 第四分団長 | 井上 順徳 |

あなたのため



| | |
|-------|------|
| 第三分団長 | 横山和也 |
| 第四分団長 | 細田隆行 |
| 第五分団長 | 木崎秀尚 |
| 第六分団長 | 竹田恵一 |
| 第七分団長 | 鈴木正幸 |
| 第八分団長 | 加治典男 |
| 第九分団長 | 金子稔 |
| 第十分団長 | 加藤幸男 |

第六分団 38名

私たちは、加治地区を担当しています。

入間川と成木川を挟んで本部と四つの部から編成されています。スポーツを楽しむための市民体育館や阿須運動公園、市内が一望できる美杉台公園などの施設があります。人口増加率が一番高い地区なので火災予防のPRや訓練に力を入れています。他には親睦旅行や加治体育祭への参加、盆踊りやお祭りの警備も行なっています。

第七分団 36名

私たちは、精明地区を担当しています。

地域の皆様とは体育祭・お祭り・盆踊りなどを通じて触れ合いを深めています。訓練は厳しさもあり、楽しさもあると言えるでしょう。研修旅行・ボーリング大会・スキー・家族慰安旅行など楽しい行事もあり親睦を図っています。十月二十三日に四部(浅間・新光)に小型動力ポンプ付積載車が配属され、今後の活躍が期待されています。

第八分団 48名

私たちは、人口急増地域の原市場地区を担当しています。

多くの神社仏閣があり、観光地としても有名な子ノ山・竹寺については、例大祭・大晦日の交通警備をしています。晦日の交通警備をしています。分団内を流れる清流名栗川には四季を通じてたくさんの方が訪れますので、事故防止のため、随時バトロールも行なっています。この他にも地域の皆様に親しまれる消防団をめざし、さまざまな活動をしています。

第九分団 47名

私たちは、東吾野地区を担当しています。五つの部がそれぞれの地元で活動し、地元の皆様と密着し信頼関係を作ることに入れています。

借宿神社のお祭りには消防団員による出し物が恒例となっていて、操法大会の結果や新入団員が発表され、部長を中心にして地元の皆様との交流を図っています。また家族・友人を交えてのバーベキュー大会や旅行などを実施し親睦の和を広げていきます。

第十分団 53名

私たちは、吾野地区を担当しています。

吾野・西吾野・正丸の三つの駅を挟む広い地域です。なかでも正丸トンネルは県内の国道では一番長く千九一八メートルもありました。ここで毎年県主催の正丸トンネル防災訓練が行われます。本番さながらに交通止めにして、水利を確保し小型ポンプとポンプ車で中継放水を行ないます。終了後バーベキューをしながらの反省会も楽しみます。

救命率向上のために 応急手当を学ぶ

消防本部警防係長 関根昭夫

昨年は大きな災害の多い年でした。そんな時、大きく取り上げられたのが消防団の活躍でした。雲仙普賢岳の噴火災害や北海道南西沖地震では非難誘導・消火救助・津波警戒・水防活動等身を挺して献身的に活動しました。これらはマスコミで大きく報道され、大規模災害には消防団活動が不可欠であることが立証されたと言えます。

いざ鎌倉という時には、まさに自分達の地域は自分達で守るよりほかにはありません。そんな場合、日頃から訓練を積んだ専門家集団としての消防団の活動が欠かせなくなるわけです。

そこで飯能消防団では、予想される大災害等に対応するために、平成四年度から全団員を対象に救命処置を中心とした応急手当講習会を実施しております。この講習会によ

り消防団の活性化と住民に愛される団員の養成も図ります。飯能市は、本年七月一日に

応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱を定め、これに基づく普通救命講習を実施しました。この度技術・知識が基準に達した一七四名の消防団員に対して消防長から普通救命講習終了証が交付されました。今後は、指導員・普及員資格を取得し、地域住



▶今年の秋の第2回普通救命講習。市内四ヶ所で実施した。

民や勤務先の同僚等に対しても指導のできる高度の技術を持った団員の養成も課題となると思っています。

国民生活の利便性が向上した今日では、一端災害が発生した場合の人命に対する危険が増大し、その容態も年々複雑多様化しています。消防団では時代背景に適応した質の高い団員づくりをめざして日夜がんばっています。

消防団に入って

七分団三部 利根川典久

今年の四月に消防団に入ってから半年が過ぎました。組織や活動にもようやく慣れてきました。活動内容としては、車両や器具の点検と管理・火災予防・消火訓練などをして

います。また、消防活動以外では、旅行やバーベキュー、その他いろいろ行っています。行事を通して数多くの仲間ができて、入団する事を不安に思っていた頃が嘘のように楽しく過ごしています。

たのもしい味方

消防本部庶務係長 新井芳久

三七五名の消防団員は、消防職員との交流も活発で意志の疎通も十分です。消火活動はもとより各種訓練など相互に連携して力を発揮しています。人員の少ない消防職員にとって「たのもしい味方」と言えます。消防団員のほとんどが地元出身者なので、消防署員をはじめ市民とは顔なじみが多く、消防行政を進める環境は最高です。

世の中で一番大切なものは、人間の命と財産の保全ではないでしょうか。消防団員の方々は今日も「自分の街は自分で守る」を合言葉に、街の安全のために一丸となって取り組まれています。それぞれの職業を持ちながら市民を大切に思い、そして市民から親しまれ信頼されることをモットーに活動されています。このように地域に密着した消防団員は、市民の皆様にとっても「たのもしい味方」と言えるでしょう。

編集後記

日頃は消防団活動にご協力をいただきありがとうございます。さらに、活動のご理解と新入団員確保等にご協力いただきましたたく広報紙の発行となりました。◆団員活動は、消防本部・消防署の方々の暖かい気持ちに支えられ、訓練・研修・旅行等、苦楽を共にして各分団チームワーク良く活動をしています。◆自分・家族・地域等を守るためどうか勇気を持って消防団活動に挑戦してください。させてください。

- 副団長 柿沼 敏夫
編集委員
本部分団長 田淵誠太郎
第一分団 沼崎 修一
第二分団 大沢 正欣
第三分団 島崎 好司
第四分団 堀口 純男
第五分団 木崎 稔生
第六分団 金子 隆
第七分団 黒米 正幸
第八分団 大窟 信行
第九分団 若林 誠一
第十分団 大河原 弘
題字は吉田行男様にご協力いただきました。



かわらばん

愛される消防団をめざして

飯能消防団

団長 金子堅造



阪神大震災をはじめとして各地で災害がおき、地域に根ざした消防団の責務の重大さを痛感しております。

今後も施設、装備の充実強化を更に働きかけ、常備消防との円滑な協力体制を維持して活動していきたいと思えます。また市民一人一人の防災意識が向上するよう、広報活動、交流活動を活発に行い、市民との連帯感を強め安全な街づくりを心掛けてまいります。

来春、精明地区に完成する防災センターを拠点に、消防団の活性化を推進してまいります。

今後も市民に一層愛される消防団を目指し努力してまいります。ご協力をお願い申し上げます。

市民と消防団

飯能市消防後援会連合会

会長 井上木平

飯能市には消防後援会と言う組織があります。これは県下でも数少ない団体です。後援会は消防団を側面から応援し、各分団ごとに組織され行事を後援しています。地元で火災があった場合は自治会と共に支援いたします。

後援会は市民とも密接な関係にあり、団員の励みにもなっています。阪神大震災のような災害が起り、消防署の救援が困難なとき、頼りになるのは地元の消防団です。常日頃市民と団員が相互理解をはかっていたれば、有事の際には団員の積極的な活躍が期待できます。

後援会は今後とも団員と市民の橋渡しとなっていく所存です。さらに消防本部・消防署と消防団との融和をはかるうえでもいろいろと協力していきます。これからは消防団の存在がますます重要になってまいります。団員の活躍を祈念してやみません。



▲特別点検 一斉放水訓練 平成6年12月1日 飯能河原

入団式

毎年四月の第一日曜に挙行されます。今年は四十一名に団長から辞令が渡され、ピカピカの新人団員が誕生しました。式の後には富士見小学校校庭に移り、小学校以来と思われる「右向け右、廻れ右」などの基礎訓練が行われます。



しています

朝はどこことなくギクシャクした制服姿ですが、終了する頃になると、新しい帽子に敬礼する姿が様になってきます。自分達の街は自分で守る精神でがんばりましょう。



野球大会

今年度新に加わった行事です。五月に飯能市議会議員チームと美杉台グラウンドで対戦しました。戦前、議員チームはかなりの強豪と予想され、絶好調との情報もつかんでいましたので、数回にわたって練習し試合に臨みました。結果は一回から消防団の猛打が爆発し、ワンサイドゲームになってしまいました。楽しかった野球の話でその夜の懇

親会は盛り上がりました。普段話す機会の少ない議員さんといろいろな話しができて、有意義な大会でした。



団幹部研修旅行

分団間の交流を活発にし、団幹部との連帯を図るため、毎年七月に開催されています。今年は八十名の中年男が熱海に向かってバスに乗り込みました。車中では他分団の団員とも和気あいあいに過ごし、懇親が深まりました。到着後会議が開かれ、防災訓練について綿密かつ真剣に協議されました。夜の懇親会は会議とは打って変わって、賑やかになりました。同じ使命を持つ者同士が盃を交わせば話しも

弾みます。翌日は大山阿夫利神社に参拝し、団長以下、飯能の平安をお祈りしました。

消防操法大会

技術の向上と訓練の成果を発揮するために二年に一度七月に開催します。火災を想定し、器械器具の設置から放水・取納までの一連の操作を速度と節度で競います。練習は分



団毎に行われ五月頃から始まります。週の数日、仕事を終えてから集まり、操作の反復練習を何度となく続けます。大会当日は、長い練習に耐えた達成感と夜の練習がなくなるといふ解放感に包まれます。この大会を経験することで、分団の結束は更に固まります。

ゴルフ大会

消防団の活動は、訓練ばかりと思われがちですが、楽しい行事もいろいろあります。中でも毎年八月に行われる分団対抗ゴルフがその一つです。各分団より数名出席し、全体で六十人程になる大きなコンペです。このゴルフは団員間の交流と親睦、協調性を図るために開催します。猛暑の中、セミプロ級から初めてクラブを握った人まで、汗をかきかきプレーします。終わった後は体重も減り、またピールの味も格別です。パーティーは最高に盛り上がり、これを楽しみに参加している人も少なくありません。みんな夏が楽しみます。



こんな活動

防災訓練

二年に一度、焼け付くような真夏の太陽の下で「飯能市防災訓練」は開催されます。

この訓練は先の阪神大震災のような大規模災害を想定し、消防関係者のみならず、一般



市民の方々と交え、市を上げて行われる大掛かりなもので、初期消火訓練、救急救護訓練を始め非常時に備えた様々な訓練が展開されます。

「自分たちのまちは自分たちで守る」そんな気概をみなぎらせ参加者は皆、真剣そのもの。額に汗しながら、日頃の備えの大切さを実感する一日です。

救急講習会



けが人や急病人が出たとき、応急処置を行うことで命を救えることがあります。救急隊が到着するまでの応急処置を修得するため、一昨年より救急講習を受講しています。内容は、三角巾による止血法、

人工呼吸法、心臓マッサージによる心肺蘇生法などで、実践しながらに熱心に受講しました。現在二五二人の団員が普通救命講習終了証を取得しています。今年の夏には消防団員が一人の命を心肺蘇生法により救いました。

飯能まつり

勇壮な賑わいの中にこそ、安全を確保することが求められます。老若男女、お祭りに

参加している人達すべてが、事故なく楽しく過ごせるよう、山車に付き、街角に立ち、迷子を抱えています。パレードやお囃子を見るためには、人波の前に行かなければなりません。その気持ちを十分過ぎるほどわかっている団員ですが、「まっと下がってください」と声を出し、笛を鳴らしています。「愛と誠実の警備」を心掛けていますので、皆様のご協力をお願いします。

特別点検

毎年十二月一日に一年間の総決算として、挙行されます。

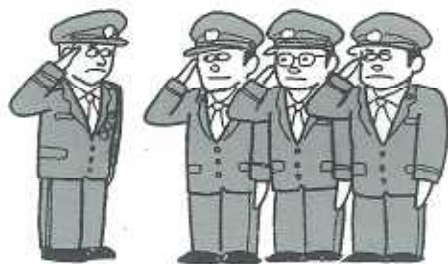
早朝より来賓が多数臨席する中、小山市長が点検官となり、全分団が点検を受けます。観閲、服装規律の点検、礼式訓練、消防操法、飯能河原での一斉放水訓練等を行います。点検終了後は、各地区で後援会主催による慰労会が開催されます。席上、優良消防団員、火気取扱優良家庭等の表彰伝達も行われ、地域の方々と親睦を深めています。

出初式

消防団の新年は出初式で明けます。江戸の町火消しの頃から続く伝統の儀式で、季節の風物詩にもなっています。

飯能消防団では一月の第二日曜日第一小学校校庭で開催します。式は通常早朝から屋外で挙行されるので、寒さは大変厳しく身が引き締まります。しかし、正月気分から抜けるにはちょうど良いのかも知れません。小山市長や来賓が臨席する中、観閲、服装規律の点検等が行われます。勇壮な中にも市民の皆様の一

年が始まります。来春の防災センターの完成が待たれます。



火防巡視

毎年三月の第一日曜日に消防団員全員で実施します。それぞれの分団で担当区域を分け、数人が一組となって各家庭を巡視します。主な点検項目は、一・石油タンク（ポリタンク）の保管場所、二・プロパンガスの転倒防止器具の設置状況、三・一人暮らしの老人のホームサイレンの確認などです。これらについて安全が確保されていないときは注意や修正を行います。地域の皆様の防災に対する理解とご協力をお願いします。

12月1日(金)8時より第一小学校で市消防機関特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

心掛けよう交通安全

今年飯能市は、交通死亡事故多発により、交通事故防止特別対策地域に指定されています。

消防団員は、交通安全についても日頃から指導を受けています。秋の団員訓練時に交

消防団に入つて

市民の皆様は、交通安全に日頃から安全運転を心掛けていきたいと思ひます。

阪神大震災が発生した年に消防団に入団した私は、責任の重大さを改めて認識して

消防団に入つて

災地で、懸命に救出活動や消火作業をする消防関係者の姿は、今も心に残っています。

地域の皆様の協力によって活動できる消防団です。社会人として成長する良い機会だ



と、思ひ、がんばっています。

飯能消防団役員一覽

| 職名 | 氏名 | 住所等 | 職名 | 氏名 | 住所等 | |
|---------|-----------|---------|---------|-----------|---------|-----|
| 団 長 | 金子 堅造 | 消防署内 | 分 団 長 | 金子 隆 | | |
| 副 団 長 | 小久保 勝弘 | | 副 分 団 長 | 今 泉 一 夫 | | |
| 副 団 長 | 柿 沼 敏 夫 | | 本 部 部 長 | 菊 地 大 吉 | | |
| 副 団 長 | 田 淵 誠 太 郎 | | 1 部 部 長 | 清 水 伸 次 | | 岩 沢 |
| 分 団 長 | 加 藤 潔 | | 2 部 部 長 | 梶 田 清 | | 川 寺 |
| 部 長 | 小 川 勝 | | 3 部 部 長 | 大 久 保 利 昭 | | 落 合 |
| 分 団 長 | 山 崎 勝 義 | | 4 部 部 長 | 穴 戸 浩 信 | | 矢 區 |
| 副 分 団 長 | 沼 崎 修 一 | | 分 団 長 | 黒 米 正 幸 | | |
| 本 部 部 長 | 須 田 浩 | | 副 分 団 長 | 関 谷 幸 夫 | | |
| 1 部 部 長 | 安 藤 完 二 | | 本 部 部 長 | 志 村 和 男 | | |
| 2 部 部 長 | 小 峰 泰 男 | 1 部 部 長 | 新 井 浩 昭 | 小 久 保 | | |
| 3 部 部 長 | 佐 藤 昌 宏 | 2 部 部 長 | 小 島 良 造 | 平 松 | | |
| 分 団 長 | 鈴 木 弘 一 | 3 部 部 長 | 小 川 英 之 | 双 柳 | | |
| 副 分 団 長 | 大 澤 正 欣 | 4 部 部 長 | 早 野 充 明 | 淺 間 | | |
| 本 部 部 長 | 佐 島 孝 治 | 分 団 長 | 加 治 典 男 | | | |
| 1 部 部 長 | 武 居 芳 明 | 副 分 団 長 | 大 野 正 巳 | | | |
| 2 部 部 長 | 長 岡 日 出 男 | 本 部 部 長 | 大 窟 信 行 | | | |
| 3 部 部 長 | 木 下 忠 雄 | 1 部 部 長 | 曾 根 敦 夫 | | 原 市 場 | |
| 分 団 長 | 横 山 和 也 | 2 部 部 長 | 西 村 光 夫 | | 下 赤 工 | |
| 副 分 団 長 | 橋 本 秀 夫 | 3 部 部 長 | 佐 野 友 幸 | | 中 藤 中 郷 | |
| 本 部 部 長 | 島 崎 好 司 | 4 部 部 長 | 中 島 進 | | 赤 沢 | |
| 1 部 部 長 | 久 下 光 正 | 5 部 部 長 | 関 口 宏 年 | | 中 沢 | |
| 2 部 部 長 | 小 沢 政 彦 | 分 団 長 | 金 子 隆 一 | | | |
| 3 部 部 長 | 武 末 亮 一 | 副 分 団 長 | 若 林 誠 一 | | | |
| 4 部 部 長 | 駒 井 康 雄 | 本 部 部 長 | 大 野 正 幸 | | | |
| 5 部 部 長 | 粕 谷 敏 久 | 1 部 部 長 | 小 林 正 治 | 井 上 | | |
| 分 団 長 | 堀 口 純 男 | 2 部 部 長 | 岡 田 昇 | 白 子 | | |
| 副 分 団 長 | 細 田 正 之 | 3 部 部 長 | 加 藤 成 夫 | 虎 秀 | | |
| 本 部 部 長 | 加 治 文 幸 | 4 部 部 長 | 行 平 晃 | 瀬 尾 | | |
| 1 部 部 長 | 細 田 成 一 | 5 部 部 長 | 栗 原 和 吉 | 風 影 | | |
| 2 部 部 長 | 山 川 浩 | 分 団 長 | 加 藤 幸 男 | | | |
| 分 団 長 | 木 崎 秀 尚 | 副 分 団 長 | 大 河 原 弘 | | | |
| 副 分 団 長 | 木 崎 稔 生 | 本 部 部 長 | 淺 見 照 雄 | | | |
| 本 部 部 長 | 馬 場 茂 幸 | 1 部 部 長 | 宇 川 恒 夫 | | 坂 石 町 分 | |
| 1 部 部 長 | 松 下 裕 司 | 2 部 部 長 | 木 村 文 男 | | 坂 石 | |
| 2 部 部 長 | 青 木 和 浩 | 3 部 部 長 | 田 中 充 宏 | | 吾 野 | |
| 3 部 部 長 | 石 森 一 雄 | 4 部 部 長 | 淺 見 実 | | 南 川 | |
| 4 部 部 長 | 大 野 祐 司 | 5 部 部 長 | 田 中 満 | | 北 川 | |

編集後記 第二号の「かわらばん」を発行します。市民の皆様の中にも、消防団員として活躍された方がいらつしやると思ひますので、どうぞご覧になってください。昭和二十二年に飯能消防団が結成されてから第八代・金子団長まで諸先輩の努力のおかげで、県内でも優秀な消防団として評価されています。団員が編集したこの紙面を通して、私達の活動にご理解・ご協力をいただきますようお願い申しあげます。

副 団 長 田 淵 誠 太 郎

編集委員 加藤 潔

本部部長 木崎 幸長

第一分団 沼崎 修一

第二分団 大澤 正欣

第三分団 島崎 好司

第四分団 細田 正之

第五分団 馬場 茂幸

第六分団 今泉 一夫

第七分団 関谷 幸夫

第八分団 大窟 信行

第九分団 大野 正幸

第十分団 久保 紀夫

題字は吉田行男様にご協力いただきました。



かわらばん

愛される消防団をめざして

飯能消防団

団長 金子堅造



阪神大震災をはじめとして各地で災害がおき、地域に根ざした消防団の責務の重大さを痛感しております。

今後も施設、装備の充実強化を更に働きかけ、常備消防との円滑な協力体制を維持して活動していきたいと思えます。また市民一人一人の防災意識が向上するよう、広報活動、交流活動を活発に行い、市民との連帯感を強め安全な街づくりを心掛けてまいります。

来春、精明地区に完成する防災センターを拠点に、消防団の活性化を推進してまいります。

今後も市民に一層愛される消防団を目指し努力してまいります。ご協力をお願い申し上げます。

市民と消防団

飯能市消防後援会連合会

会長 井上木平

飯能市には消防後援会と言う組織があります。これは県下でも数少ない団体です。後援会は消防団を側面から応援し、各分団ごとに組織され行事を後援しています。地元で火災があった場合は自治会と共に支援いたします。

後援会は市民とも密接な関係にあり、団員の励みにもなっています。阪神大震災のような災害が起り、消防署の救援が困難なとき、頼りになるのは地元の消防団です。常日頃市民と団員が相互理解をはかっていたら、有事の際には団員の積極的な活躍が期待できます。

後援会は今後とも団員と市民の橋渡しとなっていく所存です。さらに消防本部・消防署と消防団との融和をはかるうえでもいろいろと協力していきます。これからは消防団の存在がますます重要になってまいります。団員の活躍を祈念してやみません。



▲特別点検 一斉放水訓練 平成6年12月1日 飯能河原

入団式

毎年四月の第一日曜に挙行されます。今年は四十一名に団長から辞令が渡され、ピカピカの新人団員が誕生しました。式の後には富士見小学校校庭に移り、小学校以来と思われる「右向け右、廻れ右」などの基礎訓練が行われます。



しています

朝はどこことなくギクシャクした制服姿ですが、終了する頃になると、新しい帽子に敬礼する姿が様になってきます。

自分達の街は自分達で守る精神でがんばりましょう。



野球大会

今年度新に加わった行事です。五月に飯能市議会議員チームと美杉台グラウンドで対戦しました。戦前、議員チームはかなりの強豪と予想され、絶好調との情報もつかんでいましたので、数回にわたって練習し試合に臨みました。結果は一回から消防団の猛打が爆発し、ワンサイドゲームになってしまいました。楽しかった野球の話でその夜の懇

親会は盛り上がりました。普段話す機会の少ない議員さんといろいろな話しができて、有意義な大会でした。



団幹部研修旅行

分団間の交流を活発にし、団幹部との連帯を図るため、毎年七月に開催されています。今年は八十名の中年男が熱海に向かつてバスに乗り込みました。車中では他分団の団員とも和気あいあいに過ごし、懇親が深まりました。到着後会議が開かれ、防災訓練について綿密かつ真剣に協議されました。夜の懇親会は会議とは打って変わって、賑やかになりました。同じ使命を持つ者同士が盃を交わせば話しも

弾みます。翌日は大山阿夫利神社に参拝し、団長以下、飯能の平安をお祈りしました。

消防操法大会

技術の向上と訓練の成果を発揮するために二年に一度七月に開催します。火災を想定し、器械器具の設置から放水・取納までの一連の操作を速度と節度で競います。練習は分



団毎に行われ五月頃から始まります。週の数日、仕事を終えてから集まり、操作の反復練習を何度となく続けます。大会当日は、長い練習に耐えた達成感と夜の練習がなくなるといふ解放感に包まれます。この大会を経験することで、分団の結束は更に固まります。

ゴルフ大会

消防団の活動は、訓練ばかりと思われがちですが、楽しい行事もいろいろあります。中でも毎年八月に行われる分団対抗ゴルフがその一つです。各分団より数名出席し、全体で六十人程になる大きなコンペです。このゴルフは団員間の交流と親睦、協調性を図るために開催します。猛暑の中、セミプロ級から初めてクラブを握った人まで、汗をかきかきプレーします。終わった後は体重も減り、またピールの味も格別です。パーティーは最高に盛り上がり、これを楽しみに参加している人も少なくありません。みんな夏が楽しみます。



こんな活動

防災訓練

二年に一度、焼け付くような真夏の太陽の下で「飯能市防災訓練」は開催されます。

この訓練は先の阪神大震災のような大規模災害を想定し、消防関係者のみならず、一般



市民の方々と交え、市を上げて行われる大掛かりなもので、初期消火訓練、救急救護訓練を始め非常時に備えた様々な訓練が展開されます。

「自分たちのまちは自分たちで守る」そんな気概をみなぎらせ参加者は皆、真剣そのもの。額に汗しながら、日頃の備えの大切さを実感する一日です。

救急講習会



けが人や急病人が出たとき、応急処置を行うことで命を救えることがあります。救急隊が到着するまでの応急処置を修得するため、一昨年より救急講習を受講しています。内容は、三角巾による止血法、

人工呼吸法、心臓マッサージによる心肺蘇生法などで、実践しながらに熱心に受講しました。現在二五二人の団員が普通救命講習終了証を取得しています。今年の夏には消防団員が一人の命を心肺蘇生法により救いました。

飯能まつり

勇壮な賑わいの中にこそ、安全を確保することが求められます。老若男女、お祭りに

参加している人達すべてが、事故なく楽しく過ごせるよう、山車に付き、街角に立ち、迷子を抱いています。パレードやお囃子を見るためには、人波の前に行かなければなりません。その気持ちを十分過ぎるほどわかっている団員ですが、「まっと下がってください」と声を出し、笛を鳴らしています。「愛と誠実の警備」を心掛けていますので、皆様のご協力をお願いします。

特別点検

毎年十二月一日に一年間の総決算として、挙行されます。

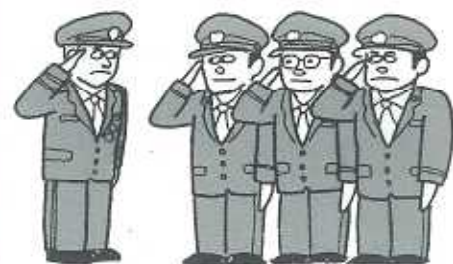
早朝より来賓が多数臨席する中、小山市長が点検官となり、全分団が点検を受けます。観閲、服装規律の点検、礼式訓練、消防操法、飯能河原での一斉放水訓練等を行います。点検終了後は、各地区で後援会主催による慰労会が開催されます。席上、優良消防団員、火気取扱優良家庭等の表彰伝達も行われ、地域の方々と親睦を深めています。

出初式

消防団の新年は出初式で明けます。江戸の町火消しの頃から続く伝統の儀式で、季節の風物詩にもなっています。飯能消防団では一月の第二日曜日

に第一小学校校庭で開催します。式は通常早朝から屋外で挙行されるので、寒さは大変厳しく身が引き締まります。しかし、正月気分から抜けるにはちょうど良いのかも知れません。小山市長や来賓が臨席する中、観閲、服装規律の点検等が行われます。勇壮な中にも市民の皆様の一間の安全を願い、消防団の一

年が始まります。来春の防災センターの完成が待たれます。



火防巡視

毎年三月の第一日曜日に消防団員全員で実施します。それぞれの分団で担当区域を分け、数人が一組となって各家庭を巡視します。主な点検項目は、一・石油タンク（ポリタンク）の保管場所、二・プロパンガスの転倒防止器具の設置状況、三・一人暮らしの老人のホームサイレンの確認などです。これらについて安全が確保されていないときは注意や修正を行います。地域の皆様の防災に対する理解とご協力をお願いします。

12月1日(金)8時より第一小学校で市消防機関特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

心掛けよう交通安全

今年飯能市は、交通死亡事故多発により、交通事故防止特別対策地域に指定されています。

消防団員は、交通安全についても日頃から指導を受けています。秋の団員訓練時に交

消防団に入つて

市民の皆様は、交通安全に日頃から安全運転を心掛けていきたいと思ひます。

阪神大震災が発生した年に消防団に入団した私は、責任の重大さを改めて認識して

消防団に入つて

災地で、懸命に救出活動や消火作業をする消防関係者の姿は、今も心に残っています。

地域の皆様の協力によって活動できる消防団です。社会人として成長する良い機会だ



と、がんばっています。

飯能消防団役員一覽

| 職名 | 氏名 | 住所等 | 職名 | 氏名 | 住所等 | |
|------|-------|------|------|-------|------|----|
| 団長 | 金子堅造 | 消防署内 | 分団長 | 金子隆 | | |
| 副団長 | 小久保勝弘 | | 副分団長 | 今泉一夫 | | |
| 副団長 | 柿沼敏夫 | | 本部部長 | 菊地大吉 | | |
| 副団長 | 田淵誠太郎 | | 1部部長 | 清水伸次 | | 岩沢 |
| 分団長 | 加藤潔 | | 2部部長 | 梶田清 | | 川寺 |
| 部長 | 小川勝 | | 3部部長 | 大久保利昭 | | 落合 |
| 分団長 | 山崎勝義 | | 4部部長 | 穴戸浩信 | | 矢野 |
| 副分団長 | 沼崎修一 | | 分団長 | 黒米正幸 | | |
| 本部部長 | 須田浩 | | 副分団長 | 関谷幸夫 | | |
| 1部部長 | 安藤完二 | | 本部部長 | 志村和男 | | |
| 2部部長 | 小峰泰男 | 1部部長 | 新井浩昭 | 小久保 | | |
| 3部部長 | 佐藤昌宏 | 2部部長 | 小島良造 | 平松 | | |
| 分団長 | 鈴木弘一 | 3部部長 | 小川英之 | 双柳 | | |
| 副分団長 | 大澤正欣 | 4部部長 | 早野充明 | 浅間 | | |
| 本部部長 | 佐島孝治 | 分団長 | 加治典男 | | | |
| 1部部長 | 武居芳明 | 副分団長 | 大野正巳 | | | |
| 2部部長 | 長岡日出男 | 本部部長 | 大窟信行 | | | |
| 3部部長 | 木下忠雄 | 1部部長 | 曾根敦夫 | | 原市場 | |
| 分団長 | 横山和也 | 2部部長 | 西村光夫 | | 下赤工 | |
| 副分団長 | 橋本秀夫 | 3部部長 | 佐野友幸 | | 中藤中郷 | |
| 本部部長 | 島崎好司 | 4部部長 | 中島進 | | 赤沢 | |
| 1部部長 | 久下光正 | 5部部長 | 関口宏年 | | 中沢 | |
| 2部部長 | 小沢政彦 | 分団長 | 金子総一 | | | |
| 3部部長 | 武末亮一 | 副分団長 | 若林誠一 | | | |
| 4部部長 | 駒井康雄 | 本部部長 | 大野正幸 | | | |
| 5部部長 | 粕谷敏久 | 1部部長 | 小林正治 | 井上 | | |
| 分団長 | 堀口純男 | 2部部長 | 岡田昇 | 白子 | | |
| 副分団長 | 細田正之 | 3部部長 | 加藤成夫 | 虎秀 | | |
| 本部部長 | 加治文幸 | 4部部長 | 行平晃 | 瀬尾 | | |
| 1部部長 | 細田成一 | 5部部長 | 栗原和吉 | 風影 | | |
| 2部部長 | 山川浩 | 分団長 | 加藤幸男 | | | |
| 分団長 | 木崎秀尚 | 副分団長 | 大河原弘 | | | |
| 副分団長 | 木崎稔生 | 本部部長 | 浅見照雄 | | | |
| 本部部長 | 馬場茂幸 | 1部部長 | 宇川恒夫 | | 坂石町分 | |
| 1部部長 | 松下裕司 | 2部部長 | 木村文男 | | 坂石 | |
| 2部部長 | 青木和浩 | 3部部長 | 田中充宏 | | 吾野 | |
| 3部部長 | 石森一雄 | 4部部長 | 浅見実 | | 南川 | |
| 4部部長 | 大野祐司 | 5部部長 | 田中満 | | 北川 | |

編集後記 第二号の「かわらばん」を発行します。市民の皆様の中にも、消防団員として活躍された方がいらつしやると思ひますので、どうぞご覧になってください。昭和二十二年に飯能消防団が結成されてから第八代・金子団長まで諸先輩の努力のおかげで、県内でも優秀な消防団として評価されています。団員が編集したこの紙面を通して、私達の活動にご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

副団長 田淵 誠太郎

編集委員
 本部分団長 加藤 潔
 本部部長 木崎 幸長
 第一分団 沼崎 修一
 第二分団 大澤 正欣
 第三分団 島崎 好司
 第四分団 細田 正之
 第五分団 馬場 茂幸
 第六分団 今泉 一夫
 第七分団 関谷 幸夫
 第八分団 大窟 信行
 第九分団 大野 正幸
 第十分団 久保 紀夫

題字は吉田行男様にご協力いただきました。



編集・発行
飯能消防団広報委員会

かわらばん



第46回 奥武蔵駅伝初出場 '97.1.26

“市民とともに走って行きます”

緊急特集

「自分のところは自分で守ろう」
—こんなところがあぶね—ぞ!!—

- ◎防災センターへ行こう!!
- ◎消防団ニュース、活性化委員会報告 etc.

平成9年度

第

4号



危

自分のとまごころは 自分で守るうう!!

飯能市の火災現状

現在までの火災発生件数は

*平成六年 三十二件

*平成七年 五十三件

*平成八年 六十三件

*平成九年 三十七件(五月現在)

と年々増加の傾向にあり、

その内訳を見ると、放火または放火の疑いの割合が多く、

出火原因の第一位となっております。

*平成六年 十四件

*平成七年 十五件

*平成八年 二十三件

*平成九年 十四件(五月現在)

となっております。また、放火場

所は件数の六割から八割が、

仲町、柳町、八幡町、新町、

南町、東町など市街地に集中

しています。

こんなところが
あぶねーぞ!



放火火災は、年々増加傾向

にあり、火災原因のトップを

占めています。放火は、生活

の中でうっ屈した不満を、無

差別な放火と言う行為で発散

されているケースが多く、動

機としては、厭世(えんせい)、精神異常、

腹いせ、家庭不和などとなっ

ています。

放火された場所についてみ

ると、建物内部や外壁、軒下、

門、塀、車両など、その多く

が建物やその周囲の物件に放

火されています。一般に部外

者が自由に出入りできるとこ

ろとか、人目に付かないとこ

ろなど、被害者自らが放火さ

れやすい環境を造り上げて、

放火行為を容易にしている状

況が多く見受けられます。

放火火災を防止するには、

① 死角になりやすい廊下、階

段室、洗面所等の可燃物の

整理整頓又は除去(家の周

りに燃える物を置かない)

② 物置、空室等の旋錠及び人

が入れない環境づくり

③ ゴミ出しを、収集日の朝に

出すように心掛けるなど、

対策を行なう事が必要です。

消防団パトロール展開ノ

放火の場合、連続放火の危険

性もあり、その為に私たち消

防団も、歳末警戒に引き続き

二月、三月及び七月、八月に

特別夜警を行ないました。



防災センターへ行こう

こんなときあなたは どうする？

皆さんによく知られている防災センターですが、一般の方が体験出来るいろいろな設備があるという事を御存知ですか。いざ災害に会った時のために防災体験してみませんか。

● 消火器コーナー

左の写真は、防災センター内にある体験機の一つで、画面に映る炎を、消火器で狙い消火の体験ができます。



● 煙体験コーナー

日頃、私達は火の恐ろしさや、火が出た際の対処に對し迫り来る煙への対処は殆ど知られていないようです。



万が一の時の為に一度、シュミレーションしてみてもいい。

消火器の能力は、炎が天井に届かない高さまでなので早期発見。初期消火が大切になってきます。

設置場所としては台所、出入り口などが適当で、年一回は点検を実施してください。



煙体験コーナーは、細長い室内に障害ドアなどを設け実際に煙からの避難を自分自身で体験することができます。

煙への対処方法を会得してみてもいいかがですか。



● 起震機室

今、災害といつてまず思い浮かべるのは、やはり地震ではないでしょうか。起震機室は、「震度？」までを揺れと映像で体感できます。

普段、学校などでおこなわれる防災訓練がこんな場面でどれだけ生かせるかぜひ体験してみてください。

臨場感のあるこのコーナーで、楽しみながらも各自が災害発生

時に對する心構えを学んでみては、いかがですか。



● 展望室(最上階)

防災センター最上階に地上二十七メートルの展望室があります。三百六十度のガラス張り、飯能市街、日高市の一部、関東平野が一望でき、一般の方でも受付をすれば、規定時間内(九時~十六時)で見学できます。

まだ、防災センターへ来たことのない方、見晴らしのよい展望室へぜひ足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。



12月1日(月)午前8時より防災センターで飯能消防団特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

消防団 結成五十年

飯能消防団

団長 金子堅造

飯能消防団は昭和二十二年八月に結成され、本年をもって五十年を迎えます。

「自分達の地域は自分達で守る」という郷土を愛する気持ちに基づいて消防署と協力し活動をしてまいりました。

その間、多くの諸先輩の努力により組織的にも技術的にも県下で優秀な消防団として評価されています。

今、五十年の節目を迎えて伝統を保ちながら従来のイメージから脱皮し活性化に真剣に取り組んでいます。

近代設備の整った詰め所が大河原地区に完成。続いて、東吾野地区、市街地(原町・一丁目地区内)にも建設が決定しています。また、活性化

委員会を設置して、親睦パーティ、ファッション感覚の消防衣服。広報活動など、魅力ある消防団創りをしています。

飯能消防団は二十一世紀に向かつて躍進してまいります。

消防団に入って

第十分団 浅見 洋

入団して六ヶ月が過ぎ、先輩の指導で消防団活動に少しずつ慣れてきました。

吾野地区で行われた防災訓練に参加して、火災などの身近な災害に対する意識が変わりました。何かが起きたら

真つ先に駆けつける立場になつてから、テレビ、新聞などで災害の様子が報じられるたびに、身の引き締まる思いがし、責任の重さを感じます。

まだまだ経験不足ですが、使命感を持って災害のない住みよい地域になるように努力したいと思います。



消防団・活性化委員会・報告!!

◎ねるとん◎

独身団員に、吉報が!

待望の「ねるとんパーティ」が企画され、記念すべき第一回が、去る八月に開催されました。当初の募集人員をはるかに超える参加が「真夏の夜の夢」のキャッチコピーのもと、楽しいひとときが過ごされました。その結果、四組のカップルが誕生しました。その後の経過は...?

第二回の開催も予定していますので、多数の参加をお待ちしています。

◎作業服◎

火災現場や訓練時に着用しているのが作業服です。

作業服活性化委員会では、色・デザイン・機能性を考慮し(インターネットで全国のデザイン検索するなど)カッコ良さ重視で消防団のイメージを一新する作業服を審議中です。ロゴ入りTシャツやヘルメットに代わる現場用ヘルメットも同時に試行中です。

イメージアップした消防団にご期待ください。

◎50周年◎



飯能消防団が誕生して今年で五十年になりました。来年度記念式典を開催し記念誌を発行します。

記念式典は関係者など多くの方に集まっていただけという現在、検討を重ねています。記念誌は、飯能消防団を育て、伝統を築いてきた先輩諸氏に感謝をこめて今までの歴史をしるします。

現在、資料を収集しています。心あたりの方は近くの消防団員まで御一報ください。

◎編集後記◎世の中に「真心」で動く仕事があつてもいいじゃないですか!消防団は、そんな仕事です。真夜中のサイレンが目覚め、現場の助っ人に早変わり。焼け跡の片隅でおもちゃが泣いている。この情景をなくしたい。

題字は吉田行男様にご協力いただきました。

本年三月、三分団内。岩根橋のたもとに分団の拠点となる建物が完成しました。一階は車庫(積載車は十一月に配備)二階には会議室を備えたこの建物は、飯能消防団拠点化設備第一号として建てられました。積載車配備後は、四部器具庫(本郷)は廃止される予定です。



分団拠点化スタート



編集・発行：
飯能消防団広報委員会

かわらばん



“さらなる50周年へ向けて”

特集 消防団今昔物語

- ◎ おもしろ雑学 & むかし昔のお話
- ◎ 消防団ニュース・活性化委員会報告 etc.

平成10年度

第
5
号

飯能消防団今昔物語

消防団創世記

昭和二十二年に新憲法が施行され、消防団令が公布されました。同年八月一日、それまでの警防団を解散、飯能消防団として新たな出発の日となったのです。

飯能市に消防署が設置されたのは、消防団の発足から十二年後の昭和三十四年でした。消防団が消防署の誕生の元となる例は、全国でもまれな事だそうです。

新生消防団

現在の消防団は、団本部以下、十個分団（三七五名）で構成され、車両や装備も年々最新の物に更新されています。火災や災害の出動だけでなく前回の「かわらばん」で、お知らせしたように消防団を活性化するための委員会を創りこれも訓練の一環と考え、楽しく活動しています。

伝統を守りつつ、新しい物を取り入れ、明るく楽しく、それが今の飯能消防団です。

二十一世紀の消防団

未来の消防団は、常備消防の充実で消防団の役割も大きく変わると考えられます。災害現場では消防団がリーダーとなり地域住民と協力し「自分の街は、自分で守る」の精神で、きめ細かい防災活動をしていく事になると思います。今、これを読んでいる十八歳以上の貴方、消防団に入ってみませんか？ え！女性でも入団出来るか？ですって、希望者が多ければ団長も考えられると思います。消防団の未来を創るのは「あなた」です。



「消防車両」の今昔

昭和一〇年十一月飯能町はポンプ自動車を買って購入する。一九三五年型フォードV8型トラックシャーシー高圧タービンポンプである。



この一九三五年型フォード消防車（三六〇〇〇C）は、タクシーの改造車だった。

昭和一〇年から三十三年まで使用したが、整備を繰り返した（横浜のタクシー会社から部品を購入）ので乗り心地はよかった。

昭和二十五年十一月小型ポンプ自動車を二台（栃木県鹿沼市消防団が使用中の中古車）を購入する。

この二台の中古の消防自動車は、かなりいたんだものであった。放り出されるようであるのが怖かった。



昭和三十三年一〇月埼玉県では初のソフト吸管を備えた五八年型いすゞ一三〇馬力二段バランスタービン車を配属。



現在の消防団車両は、山間部の分団に配属され、中心的役割を担っています。

積載車は、ポンプを積んだまま放水でき、持ち運びも可能な新型が配属されています。





『消防操法』の今昔

操法とは、消火活動の際のポンプ設置から放水までの操作方法の事です。

消防団活動での操法といえは、操法競技大会と結び付き、第一番目に操法大会となります。次に思い出の多いのが特別点検での放水訓練になるのでしょうか。

今回、何人かの方にお話を聞いて、操法の歴史を少しもといて見ましょう。まず昭和四十年代の二人のお話を伺います。私にとって操法大会の思い出は、指揮者として出場した時「火点は前方の赤旗！」と発声すべきところを「火点は前方の赤提灯！」と言ってしまい、「メタメタ」の練習となつてしまったことがあります。(本番は、バツチリ出来ました。)



当時は、自動販売機もなく予算も少なく練習後の飲み物は、井戸水でありましたが、真夏日の練習の時、近所の方が氷割をコップに入れサイダーを差し入れて頂き、一気に飲み干した時のサイダーの甘い「ヒヤッコイ味」がいまでも忘れられません。

私が今でも思い出すのは、十二月一日の点検の日です。「放水初め」の号令と赤旗が上がり、どのポンプよりも早く放水を開始したが、それも束の間エンジンストップ！

今迄、幾多の山火事などで活躍したポンプ、どうしたところか何度回しても「ブーともスーとも」音がしない、「放水止め」ホースを撤収して引上げる様は、みじめでした。次は現代、最新版は今年



度、県大会で見事に「優勝」した、九分団の方です。

「前回から、水を出す操法になり、より実践的な方法が望まれる様になった事を実感しました。

それにしても、初めて出場した県大会。各地区から選ばれた大勢の団員の見守る中で、競技で大変緊張しました。そして優勝という得難い経験をさせて頂きました。ありがとうございました。」

以上、新旧の方々よりお話しを伺いましたが、少しは、消防操法について御理解頂けましたでしょうか。

※おもしろ雑学※

◎昔の屋敷は、檜の木を家の周りに植え火災を防いだ。また、芽蒔き屋根などが多かったところは、はしごと、笹をほうきの様にした物が用意してあり、飛び火(火の粉)をそれで払い延焼を防いだそうだ。

*燃えにくい木

カシ、ブナ、ナラ、栗など

*燃えやすい木



◎纏(まとい)とは

戦国時代は、敵、味方の目印にするために用いた。のほりや馬印。大将の傍に立てて兵隊の所在を示した。江戸時代になるともっぱら火消し組の目印となり、消し口の道筋に立った。



◎むかし昔のお話

◎飯能から浦和の消防本部まで、信号・車等少ない時代だったので、消防自動車で三十五分で着いた。

◎昭和二十年代の自動車部には豪傑が多く消防自動車の操縦訓練を名目に伊東温泉まで遠乗り(?)したり、某分団は、自動車が配置され、うれしさのあまり試乗で、大磯ロングビーチまで出掛け「ご苦労さまです」と挨拶され面映ゆかった。

◎ある分団は、料亭に借金のカタに分団旗を預けたこともあったそうだ。

また、料亭に分団旗を置き忘れたこともあった。

◎昭和二十年代から三十年代の初めころ、消火作業の時消防団員は、上を向いて活動するので、溜め池や便所に落ちることがしばしばあった。

◎消防団の行事のある日は、南裏(現在の仲町)の飲み屋さんは、消防団員であふれていたらしい。

心機一転

飯能消防団

団長 金子堅造

昨年、結成五十年を迎えた飯能消防団は、本年、五十年記念事業を、行ないました。この場をお借り致しましてご参加、ご協力を頂きました。皆様に、感謝申し上げます。事業として消防団市中パレード並びに、記念式典を開催致しました。又「飯能消防団の五〇年」記念誌を刊行しました。発行に際しては、はるか遠く過ぎ去った時代まで、さかのぼり幾多の先輩が築いてくれた偉業を掘り起こし、資料として貴重な書が完成致しました。

顧みますと戦後混乱の社会情勢から少しづつ立ち直りつつある昭和二十二年に地域の消防団として結成され、親しまれてまいりました。これを機に、さらに奮起し「災害のない飯能」と、果てしない目標に向かい明るい町づくりを邁進する所存です。今後共、よろしくお願い申し上げます。

消防団に入つて

第一分団

宮崎好弘

飯能消防団に入団して半年が過ぎ、操法大会や防災訓練を経験して、団員としての責任感がでてきたところです。入団して感じたのは、先輩団員の熱心さです。操法の練習では、仕事が終って疲れているはずなのに、きびきびとした動きに驚かされました。災害現場で活動するには、日頃からの訓練が重要なことだと理解出来ました。市民の大切な生命、財産を守る為になつていかななくてはと強く感じています。



消防団・活性化委員会・報告!!

◎ねるとん◎

●ハッピーなお知らせ! 第一回「ねるとんパーティー」により、ついにカップルが誕生しました。

さる十月四日に第一分団団員の岩瀬昌司さんが、御結婚されました。ねるとん企画第一号として、岩瀬団員の門出を心より祝したいと思います。

●末長くお幸せに! 第二回の開催も「独身団員に吉報を!」のキャッチコピーで予定しております。お楽しみに!

◎作業服◎

作業服委員会では、試行錯誤を重ねて、新しい作業服とヘルメットが、出来ました。

作業服の服地は、難燃素材を使用し、「フレッシュ飯能消防団」に似合う配色、デザインで決まりました。

又、ヘルメットは安全・作業のしやすさを第一にガラスファイバー製を採用しました。レッドカラーで分団ネーム入りです。

これからも、かっこいい飯能消防団に御期待下さい。



編集後記 先日、息子の

高校で応援団の演技発表会を見た。彼等は「規律・礼節・団結」の団則の下、愛校心の育成を目標に活動している。演技を見て鳥肌が立つ程感動し、目頭が熱くなった。我々消防団も「郷土を守り愛する心」で活動している。少し違ふかもしれないが心の片隅にこんな蛮カラ必要かもしれない。

編集委員

- 副団長 加藤 潔
 - 本部分団長 加藤 幸男
 - 本部部长 小島 良造
 - 本部部长 平沼 芳夫
 - 第一分団 山影 昌之
 - 第二分団 武居 芳明
 - 第三分団 小川 勝
 - 第四分団 須田 隆行
 - 第五分団 小嶋 宏幸
 - 第六分団 菊地 大吉
 - 第七分団 関谷 幸夫
 - 第八分団 関口 宏年
 - 第九分団 浅見 有二
 - 第十分団 田中 充宏
- 題字は吉田行男様にご協力いただきました。

編集・発行：
飯能消防団広報委員会



かわらばん



地域と消防団

特集 あぶなかつた夏!! 1999

— 精明地区不発弾処理、吾野駅土砂災害 —

◎ 飯能消防団 編成図及び団幹部一覧

平成11年度

第 **6** 号

地域と消防団

飯能消防団 団長

小久保 勝弘



消防団は「自らの手で郷土を守ろうとする精神」に基づき、火災、水災の防衛活動をはじめ、救助活動や遭難者の捜索活動など広範囲な活動を展開してきました。

また、地域における各種の行事等に積極的に参加し、地域に密着したコミュニティ活動にも微力ながら支援してまいりました。

二十一世紀を迎えるに、消防団では活動拠点施設の整備、機械器具の充実、団員の処遇改善をはじめ、現在、組織等を見直すための長期計画委員会や活性化委員会等を設置し、団の活性化に取り組んでおります。近年、サラリーマン消防団員の増加と就業地の遠隔等昼間における消防力の低下が

心配されます。近い将来、飯能消防団も女性消防団員を組織化することが極めて重要であると考えます。また、新時代に対応するために、柔軟なイメージアップを図りながら団員に魅力的な消防団でなければと考えます。

消防団は、地域防災のリーダーとして、今後も従前以上にきめ細かな予防活動や地域に密着した啓発活動を行い、防災の中核として住民の期待と信頼をつなぎとめ、地域住民に支えられてはじめて消防団たり得ると考えます。

地域連帯の要たる消防団は、地域住民との連携が特に重要であります。

今後もしもご支援、ご協力をお願い申し上げます。



安全な地域社会を目指して

飯能市消防後援会連合会

会長 梨木 芳太郎

飯能市内の各分団には、消防後援会が組織されており、消防団と消防後援会とは、地域への愛護の精神と奉仕の心で連帯しています。

二十一世紀を目前に控え、社会もますます複雑化の傾向にあり、災害状況を見ますと、火災、水災、ガス爆発、地震等各地で多くの災害が発生し、尊い人命や多くの被害がとりざたされています。これら各種災害から地域の人々の安全を確保するには常備消防機関のみならず、団員の方々の協力が何より必要であります。

飯能消防団にあつては団長を中心に消防本部と一体となつた消防活動を心から期待するとともに、消防後援会についても今後とも団員の支援に努めてまいります。



自分が育った街だから

第二分団 新入団員

宮寺 哲夫

飯能消防団に入団して、実際に災害現場での活動も経験し、消防団員としての緊張感や責任感が増してきたところです。

災害現場での先輩団員の機敏な動きを見て、改めて日頃の訓練の重要性を感じました。

一日も早く先輩団員のような働きができるように、数多くの訓練を積み、しっかりと身に付けていきたいと思っております。



平成11年度 飯能消防団 新入団員

四月に行なつた入団式での入団者宣誓の言葉を念頭におき、飯能で育つたこの住みよい環境をよりよくできるように、「自分の街は、自分で守る」の精神で、大切な市民の生命、財産を守っていききたいと思ひます。

そのためにも、訓練に積極的な気持ちで参加し、災害活動に役立てられるように、頑張っていきたいと思ひます。



山林火災訓練



新入団者宣誓

飯能に不発弾が!!

出たあーなんと重さ二百五十キロもの不発弾だ。わが街飯能にも五十四年前の戦争の爪跡が土の中に埋まっているとはとても信じられないビッグニュースだった。この爆弾の処理を七月二十五日に自衛隊らの手によって行うことになり地元住民を始め、大勢の人の注目を集めた。



今年二月から本格的な調査が始まり爆弾の存在が明らかになった。当日は、市の職員、自衛隊、警察、消防ら関係機関約三百人が動員され半径三百メートル内を立ち入り禁止区域とし、付近に住む四十五

世帯百七十人を避難させるというものだった。

消防団にあたっては、住民の方々が速やかに避難できるように作業の一時間前から、積載車で広報しながら巡回し、その後各所定の位置で交通整理を行った。安全宣言が出された後の作業は住民たちにも公開された。穴の中からクレーンで吊り上げられた不発弾は予想以上に大きいもので、もしこれが爆発していたらと考えると背中がぞっとした。無事に作業が終わったことはなによりである。戦争を知らない私達が生々しい物体を目の前にし五十四年前の夏の日をまさに体験しているような気持ちで暑い一日を終えた。



広報活動

あぶなかつた夏!!

1999

吾野駅南側の山崩れ



飯能市では、八月十二日から十四日の記録的な大雨（総雨量はなんと四一八・五ミリメートルを記録!!）により各地で被害があり、消防団員も大雨の中、ずぶ濡れになって警戒にあたりました。

吾野駅南側斜面の山崩れでは、土砂が駅のホームを直撃し、民家のすぐ近くまで押し寄せましたが、幸いなことに死傷者はありませんでした。災害は、いっどこで起こるかわかりません。もう一度、

避難場所の確認や、非常食等緊急時に持ち出す物の準備をしておいてはいいかがですか。

がんばった第八分団

八月一日、中藤上郷地内で六十代の女性が行方不明となり、朝から暑い中、捜索が開始されました。なかなか発見ができず、重苦しさも漂う中、八分団員の懸命な捜索が実り、無事発見されました。

一日大変ご苦労さまでした。

12月1日(水)午前8時より防災センターで飯能消防団特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

飯能消防団編成図 及び団幹部一覽



編集後記 消防操法競技大会
 こんな大会が消防団にある。
 前回、飯能消防団は小型ボ
 ンブ操法の部で埼玉県大会で
 優勝と三位を果たしている。
 来年は全国大会へ通じる、久々
 の年であるという。
 今年の夏、聖望学園が郷土
 の代表として、甲子園に出場
 をした。もしかしたら西暦二
 〇〇〇年は、飯能消防団の熱
 き夏に、なるかもしれない。
 是非、期待してください！

編集委員
 副 団 長 加藤 潔
 本 部 分 団 長 黒 米 正 幸
 団 本 部 班 長 大 沢 雄 治
 団 本 部 班 長 梨 木 幹 雄
 第 一 分 団 関 根 靖 信
 第 二 分 団 大 野 悟
 第 三 分 団 小 林 律 夫
 第 四 分 団 加 治 久 典
 第 五 分 団 森 田 高 広
 第 六 分 団 岩 沢 隆 史
 第 七 分 団 新 井 安 典
 第 八 分 団 町 田 信 幸
 第 九 分 団 大 沢 淳 一
 第 十 分 団 采 沢 一 幸
 題 字 は 吉 田 行 男 様 に ご 協
 力 いた だ き ま し た 。



編集：飯能消防団広報委員会
発行：平成12年11月15日

かわらばん



特集

熱戦!! ポンプ操法競技大会

**HANNO VOLUNTEER
FIRE DEPARTMENT**

— プレゼントクイズ —

平成12年度

第 **7** 号

操法競技大会

FIRE DEPARTMENT



● 消防ポンプ操法

七月九日、今年は二年に一度の操法の競技大会が行われ、市内各分団から32チームが参加し、その技とスピードを競いました。

市民の皆さんは消防ポンプ操法をご存じでしょうか。消防団員は地域防災の担い手として、火災があれば真っ先に現場に駆けつけ、消火活動に従事する責務を負っています。消防ポンプ操法とは、消火活動に必要な心・技・体の基本について養い、的確、迅速に消火活動を行うための操作要領、空手で言えば「型」にあたるようなものと言えば分かり易いかもしれません。



各分団では、何ヶ月も前から競技大会に向けて操法の訓練を始めました。



第10分団3部

飯能大会を勝ち抜き、支部大会で見事優勝を果たした十分団、N選手に聞きました。「防災センターでは連日熱のこもった訓練が行なわれ、支部大会直前には、鬼気迫る雰囲気がありました。支部を勝ち抜き出場した県大会で感じた事は、もはや飯能消防団の代表として出場したならば、全国大会出場も夢ではない、それ程頑張ったのだという事です。我々は、県大会三位でしたが良い思い出と経験ができ、次回には是非、県代表として、全国大会で優勝を狙いたいと思います。」この様に、操法競技大会に向けて、各分団、

一丸となり頑張って来たわけですが、その影には地域の人々や家族の協力、応援があったことを忘れてはいけません。あらためて御礼申し上げます。

● 父さんの運動会 （このはボクが、お父さんが応援だ!!）

本当の仕事と消防団の仕事と両方あって、操法の練習の時は大変だなあと思いました。お父さんもがんばっているんだね。火事の際には、消防車に乗ってすつ飛んで行くのがカッコイイよ。制服や作業服もとてもカッコイイと思います。お父さん、消防団ってカッコイイからやめないでね。

双柳 大沢 啓祐 六才



「パパがんばって!!」

七月九日、あつい、あつい日でした。お父さんが出場するポンプ操法大会へお母さんと妹と応援に行きました。お父さんが消防車に乗っている姿や、大きな声を出して水を出している姿は、超カッコよかったです。操法大会はまるでお父さんたちの運動会みたいで、私は一生懸命に応援しました。お休みの日に消防団のお仕事に行ってしまうとちよっぴりさみしいけど、カッコイイからがまんするよ、お父さん。

上直竹下分

浅見 郁佳 五才



熱戦!!ポンプ HANNO VOLUNTEER

私の夫は消防団

第七分団 Aさんの奥様

いつも消防団活動ご苦労様です。

操法と言えば訓練は夜遅いというイメージですが、選手の方達もお仕事の後の訓練はさぞかし大変な事と存じます。皆さん入団のお誘いがあつた時は正直「めんどろだな」と思った方も多いと思います。しかし、恐るべし消防団！一年も経てばサイレンの音に敏感に反応し、ふり返ると作業服で出勤して行く姿。団員の一人としての責任感と使命感が自然と身に付いているのです。そして操法大会ともなれば腕の見せ所。やるからには入賞目指して訓練。訓練。

私も大会を見学してみても、「帰りが遅くて…」などと言つては申し訳ない程に、すばらしいチームワークと機敏な動作に感動し、今の私にはあれだけ夢中になれる物はないなと羨ましくなり、あらためてほれなおしました。これからも消防団活動の大

切さを理解し、応援していきたいと思ひます。



今年には猛暑の夏でした。飯能市の各分団にとつては、より一層暑い夏だったのです。

消防団員としての技術や精神の基本を身につけることが消防ポンプ操法の目的です。しかしそれ以上に大切なことは、競技大会に向けての訓練の過程で、各分団のチームワークや個々の団結力がより一層強まっていく、有事に、大きな力となる事と信じます。

第六分団 私設応援団

「パパラパツパツパー」操法大会当日、競技が行われる直前、六分団の待機するテントより力強い応援ラッパの音が防災センターにこだました。

六分団では数カ月にわたる血のにじむような操法訓練のあいま、私設応援団を組織していたのだった。

ラッパを吹いたのは、二部の嶋崎君。彼は中日ドラゴンズの熱狂的ファンであり『竜心会』というドラゴンズの応援団にも加わり、東京ドームでラッパを吹いている。

「かっとなぜー六分団。ラッパ倒せーあー!!」

この掛け声で士気も高まり他の分団のテントからは羨望のまなざしで見つめられた。

団員一丸となつて大会に参加したことは、団員の思い出に深く刻まれ、と同時に、次回こそ支部大会出場を固く心に誓つたのであった。



目標は全国消防操法大会

飯能消防団長 小久保勝弘

飯能消防団結成以来、50余年の歴史の中で、今年ほど「全国操法大会出場」を、目指した年はなかったのではないでしょう。災害発生事に、最前線で消火活動にあたる、ポンプ車（小型）の、基本操作の技術を競う大会。残念な結果になつたとは云え、埼玉県下で操法技術のトップクラスに位置づけられている事は、間違いない事実です。

次の全国大会（平成16年）出場に向かって、訓練に訓練を重ね、災害に強い団員の育成に励み、地域防災を支える戦士としてがんばります。

市民の皆様、今後共、ご支援とご協力をお願い申し上げます。



消防団では、夜警を行っています。ご協力をお願いします。

11月25日(土)午前8時より防災センターで飯能消防団特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

消防は団と常備

埼玉西部広域消防本部消防長

神田 正之



埼玉西部広域消防が、各方面のご理解、ご支援を賜わりながら発足し、早五年が過ぎようとしています。

お陰様で総じて順調な推移をして居りますことに、感謝を申し上げます。

特に、団との関係において常備消防と一体となった活動を、伝統の上に更に強固にされていること、また今、団の組織見直しに真剣に取り組まれていること等、今や全国の注目を集めて居ります。

行政視察が、未だ後を絶たないことは、その証と想って居ります。

飯能消防団が、いつも地域から信頼され愛される団でありますよう念じて止みません。

消防団の誇り

第三分団 新入団員

下川 高広

私が消防団に入団する事が決まり、ある日、火事場に野次馬として駆け付けた時、消防団員の決死の活動を見て心を打たれました。私でも団員の方達の力に少しでもなればと思ひ、自分の身を捨てて市民の命を守ると言う事を実感させられました。

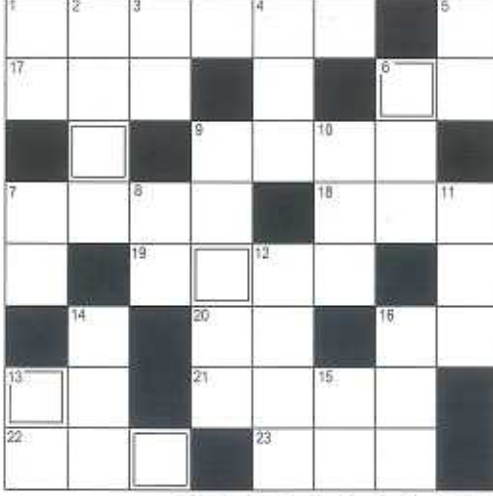
先輩方の訓練が火事場では必要且つ、重大な物だと思ひ知らされました。その為には訓練で鍛え、一歩ずつ先輩方に近づける様努力し続けたいと思ひます。

消防団に入団して半年が経ち、消防団に対する誇り、そして市民の平和を守ると言う事が自分には新しい任務と感じてきた次第です。



★ HANNO VOLUNTEER FIRE DEPARTMENT ★

消防団 プレゼントクイズ クロスワードパズル



答え ○○○○○○

問題 タテのカギとヨコのカギをたよりに、クロスワードパズルを解いてください。すべてのマスを含めて、五つの二重マスの文字を並べると、消防団の行事の一つになります。

- タテのカギ**
- キャンディーズは、ラン、スー、○○
 - アリババと40人の○○○○
 - 五月に飾るのは○○のほり
 - 現代的なこと、○○○アート
 - 開け!!○○
 - 携帯○○○
 - 寝れをとるには、ゆっくり入りたい
 - 入りTシャツはオシャレ
 - 蜂蜜のことを昔の人はこう言いました
 - 水が固まったもの
 - のような赤いホッペ
 - 君は覚えているかしら〜あの白い○○○○
 - 目元の○○、みけんの○○
 - ふりかけは○○○が一番!
 - と香り
 - ラテンアメリカの音楽の一種

- ヨコのカギ**
- お供はスケさんカクさん
 - 嘘、○○を流す
 - 夜行性の鳥です
 - 1997年中国に返還されました
 - 花札の役「イノ、○○、チョウ」
 - 今年演歌で大ヒット
 - ニュージーランド生まれのフルーツ
 - 初めと○○○
 - 英語でコックローチ
 - 鮭、これはなんという魚?
 - ホヤホヤ
 - カツオ君の妹
 - 団長の名字は?

正解者の中から
30名さまに

正解者の中から30名様に、オリジナル携帯ストラップをさしあげます。官製はがきに、クイズの答えと、◎・住所・氏名・年齢・職業(学年)・電話番号、消防団に対するご意見ご感想を明記して、下記の宛先までご応募ください。
〆切り：平成13年1月7日(日)出初式まで。
宛先：〒357-0015 飯能市大字小久保291番地 防災センター

編集後記 / 最近飯能地域

でも、不審火の疑いの火災が発生してまいります。各ご家庭内でも予防消防に心がけてください。

市民の皆様には、団員が編集しました紙面を通して、私達の活動を少しでもご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私たちは、災害のない明るい二十一世紀を築くため、これからも頑張っていきたいと考えています。

副団長 黒米 正幸

- 編集委員**
- 団本部分団長 大澤 正欣
 - 団本部班長 陣野 秀幸
 - 第一分団 横田 圭司
 - 第二分団 大野 悟
 - 第三分団 鈴木 清志
 - 第四分団 宮下 彰夫
 - 第五分団 森田 高広
 - 第六分団 内沼 貴明
 - 第七分団 新井 安典
 - 第八分団 的板 幹雄
 - 第九分団 加藤 誠一
 - 第十分団 采沢 一幸
- 題字は吉田行男様にお願いいたしました。



かわらばん

第 8 号



あの人、この人が消防団員、私たちの飯能を守ります!!

自然を、自分たちの手で ありませんか。



団員を募集しています

近年、消防署の設備と人員の充実が目ざましく、飯能市においても防災センターの建設、分署の設置等が進められています。

しかしながら、より複雑化する環境の中で、地震などの広域的災害が発生した場合、被害を最小限に止めるためには、多くの人員が必要です。消防団の存在が不可欠と言えます。今後は消防団の必要性がますます高まっていくと予想されます。

そこで、飯能消防団では、飯能市に在住または在勤の18

幼い頃、
宇宙警備隊を夢見ていたあなた、
あきらめないで!!
飯能消防団がまっています。



▲新しくできたパンフレット

永年勤めて退団すると退職報償金が支給されます。また、万が一災害現場等で負傷した場合は保障制度もあり、活動に必要な制服や作業着なども貸与されます。

災害救助の鉄則は、助ける側にも犠牲を出さないことで、危険な場面では、高度に訓練された常備の消防署員の後方支援に徹します。

特別職の地方公務員

私たち消防団員は、消防署員とは異なり、自営業者や会社員などの一般社会人で構成されています。

正式には、特別職の地方公務員という身分で、年一回報酬が支給されます。



▲中継送水訓練ではホースを何本も結合し、長い距離を送水する

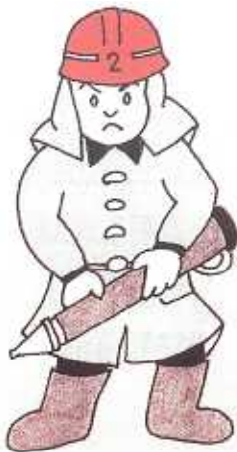
訓練ばかりじゃつまらない

災害現場で市民の生命財産を守るとともに、自らの安全も確保し、統制の取れた効果的な作業が行えるよう団員一同力を合せて訓練に励んでいます。そんな経験が互いの信頼感、チームワークを育てているのです。



▲本年9月の家族慰安会(東京ディズニーランド)

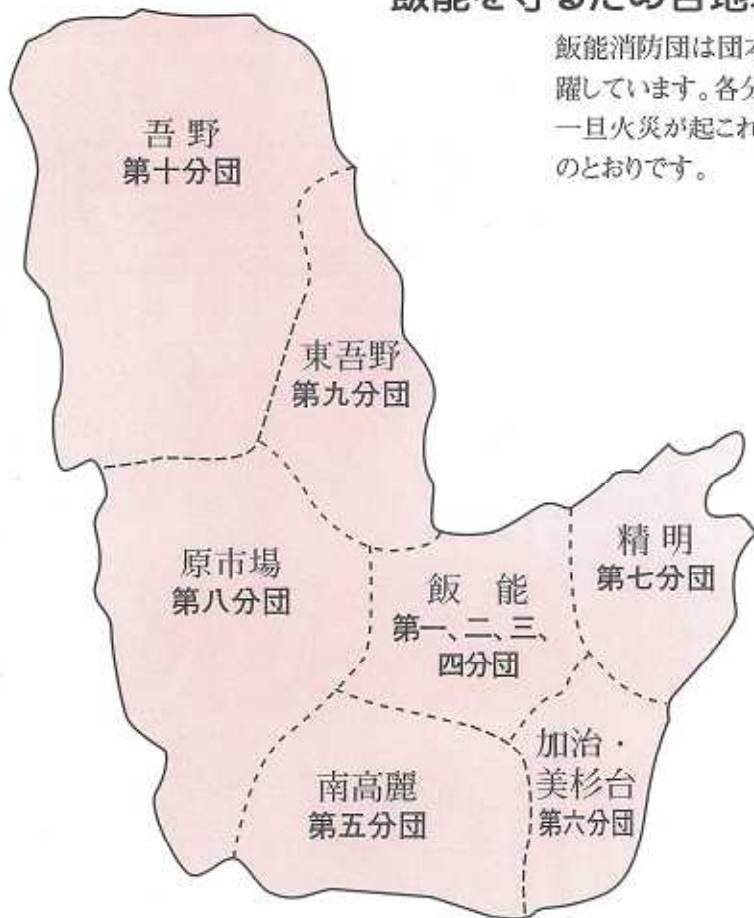
楽しい訓練も大切ですが楽しいイベントもたくさんあります。旅行やゴルフ・ボーリング・バーベキュー・合コンなどで大いに盛り上がることもあります。また、こういう親睦を通じて、新しい友達ができたり趣味が増えたり他の団体では経験できないことがたくさんあります。



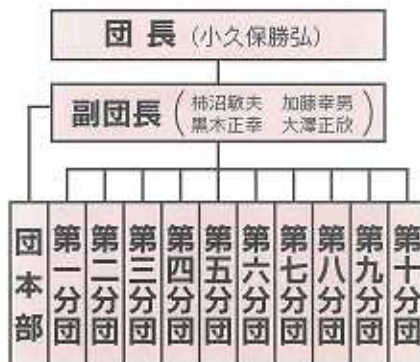
愛する人を、まちを、 守ってゆこうでは

飯能を守るため各地域の消防団員が活躍しています!

飯能消防団は団本部と10個の分団で構成され、総勢375名で活躍しています。各分団ごとに積載車(一部にポンプ車)が備えてあり、一旦火災が起これば威力を発揮します。各分団の担当地域は下のとおりです。



飯能消防団組織図



飯能消防団編成表

| | 地 域 | 人 員 | 装 備 |
|------|------------------------|-----|--------------|
| 団本部 | 市内全域 | 12 | — |
| 第一分団 | 原町・前田・中山各自治会 | 20 | 積載車1台 |
| 第二分団 | 一丁目・二丁目・柳原・東町各自治会 | 23 | 積載車1台 |
| 第三分団 | 三丁目・河原町・宮本町・本郷・大河原各自治会 | 32 | 積載車1台 |
| 第四分団 | 第二区・永田地区 | 25 | 積載車2台 |
| 第五分団 | 南高麗地区 | 40 | 積載車3台 ポンプ車1台 |
| 第六分団 | 加治・美杉台地区 | 38 | 積載車4台 |
| 第七分団 | 精明地区 | 36 | 積載車4台 |
| 第八分団 | 原市場地区 | 48 | 積載車4台 ポンプ車1台 |
| 第九分団 | 東吾野地区 | 47 | 積載車4台 ポンプ車1台 |
| 第十分団 | 吾野地区 | 49 | 積載車3台 ポンプ車1台 |

11月24日(土)午前8時より防災センターで飯能消防団特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

消防団 プレゼントクイズ第2弾 クロスワードパズル



答え ○○○○○○○○○

問題 タテのカギとヨコのカギをたよりに、クロスワードパズルを解いてください。すべてのマス目を埋めて、8コの二重マスの文字をアルファベット順に並べると、消防団の行事の一つになります。

タテのカギ

2. ○○○○模様
3. いちご、ギョウザといえば、○○○県
4. 印鑑の代用
5. いざというときに三角巾になって、手をつたり
6. このパズルを作るために○○○した
9. 梨の品種
10. ○○○教師、○○○菜園、○○○料理
13. ○○○小説
14. 荒々しい顔つきをする様子
15. 吸いすぎに注意
18. 北海道、マリモが有名
20. ○○○のしっぽ切り
22. 出○○、沈○○、埋○○

ヨコのカギ

1. 夕焼け、小鏡けの
5. 夢を食べる動物
7. ○○があかない
8. ○○○組替え食品
9. 相撲の殿堂
11. 飯能消防○○
12. ○○を購らす
13. ○○浜、○○時計、○○炭
14. ○○○○電話
17. ○○○○スープ
19. テノールとバスの間
21. 小田原名物
23. ○○に耳あり
24. ヘそまがり
25. 賞味○○○

正解者の中から30名様に、豪華賞品(?)をさしあげます。
 官製はがきに、クイズの答えと、〒・住所・氏名・年齢・職業(学年)・電話番号・消防団に対するご意見ご感想を明記して、下記の宛先までご応募ください。
 〆切り:平成14年1月6日(日) 出初式まで。
 宛先:〒357-0015 飯能市大字小久保291番地 防災センター

詰所紹介



▲細いホースでもこの水圧。

第二回目は、吾野地区管轄の第十分団一部を紹介します。吾野駅近くの坂石町分団にあり、旧国道二九九号沿いに面しています。二階建ての詰所で一階にポンプ車と器具を置き、二階は本部と部屋を併にしています。

さて今回、十分団に山林火災の消火に威力を発揮する新型消防器具が配備されました。



▲器具は1人で運べるように分解でき、現場で組み立てる。

これまで使用していた器具は、水を入れたタンクを背負い水鉄砲の要領で主に下火になった炎を消すぐらいのものでした。今度の器具は、8馬力のエンジンを搭載し、少人数で動かすことができ、消火範囲の拡大と消火時間の大幅な短縮が可能となります。今後の活躍が期待されています。

編集後記

消防団員は、よく消防署員と間違えられます。では署員と団員はどこが違うのでしょうか。署員は消防の職業とする防災のプロです。団員はと言うと、他に生業をもち、一旦緩急の際は、出立ちを消防服に変え、現場に急行する人なのです。仕事を投げ出して行くわけですから、それは家族や職場・地域の協力がなければ到底できない役回りです。市民の皆様感謝しつつ第八号かわら版をお配りいたします。

副団長 大澤 正 欣

編集委員 回本部(沼崎修一)

陣野秀幸 内沼貴明)

第一分団 (横田 圭司)

第二分団 (大野 悟)

第三分団 (鈴木 清志)

第四分団 (山川 和浩)

第五分団 (小林 政則)

第六分団 (島崎 和之)

第七分団 (本橋 義之)

第八分団 (戸丸 一男)

第九分団 (大野 健司)

第十分団 (采澤 一幸)

※題字は吉田行男様にご協力をいただきました。

消防団
特別点検
準備中



エッ火車ですか
わかりました。



よーし変身だっ。



とーっ!



放水はじめっ!

編集：飯能消防団広報委員会 発行：平成14年11月15日



かわらばん

第9号

この街を守る!

地域を守って55年



放水訓練を体験して

・先日、放水訓練を体験させて頂きありがとうございます。重くて大変でした。でも、いい経験ができました。

(平沼巨) ・やる前はちょっと緊張していたけどやってみると火を消すのが楽しそうだなと思えました。僕も消防士になりたいです。(萩原喬) ・

消防士の人は、火の中で放水するのは、本当に大変だと思います。いつ起こるか分からない火事に立ち向かってこれからも私達の為に頑張ってください。(森有希) ・私は、放水体験をしてとてもよかったです。消防の人は重い服を着て火事などになっ

たらすばやく動いて人を助けたりしてとてもすごいと思いました。放水体験ができて消防士の人の大変さが少しわかりました。(島田美紀) ・放水体験でホースを持った時は水

力でホースが重かったです。(平沼巨) ・水が出る勢いが強かった。(伊藤大竜) ・放水体験とても楽しかったです。いつもあんな暑い防火服を着て

暑くないんですか？(小能靖貴) ・ホースが重かったけど、

良い思い出ができました。やってよかったです！(久保友梨絵) ・ホースから出る水圧がとても激しかった。これからも消防活動がんばって(河合信城)

・去年六年生のを観ていてやりたいと思っていたのが実現できてよかったです(島崎慶安)

・あれだけ重いものを持って消火するのは大変だと思います。消防団の人はとてもいい仕事だと思います(梶山拓人) ・ホースが大変重かったです。何時も訓練している消防

団の人はすごいと思いました(木通亮輔) ・銀色の服が凄く暑かった。体験して消防士になりたいと思えました(斎藤翔太) ・放水訓練で難うございました。あの服を着て活動しているなんて凄いなと思いました(加藤駿) ・あんな暑い服を着て重いホースを持って火を消すなんて凄いなと思いました。ぼくも消防士になりたいです(堀口大介) ・実際ホースを持つて見ると凄く重かったです。体験してみても改めて消防の

の大変さがわかりました(西脇咲) ・ホースが重く水も勢いがあって大変でした。これを正確に早く行っているのは凄いなと思いました(茂木仁美) ・消防団の人が放水をして

いる所は見た事がありますが、やってみるのは今回が初めて結構重かったです(石田祥子) ・ホースを持って見ると、とても重くて5秒も経たずに手伝ってもらいました。これで火を消すなんてとても大変そうです(日向絵美) ・ホースも防火服も大変重くて、これで走ったりしているのは大変だと思いました(大石めぐみ) ・初め余りやりたくなかったけど皆が行くのを見て僕

もやってみようかなと思いやってみました。とても大変でした(栗原秀馬) ・ホースをつかんだ時水が凄い勢いで出て、後ろに飛ばされそうだった(岩浅澤) ・テレビのニュースで見ると水の迫力がすごくて消防団は「すごい」と改めて感じました(嶋田麻衣)

・僕は、消防団の人の言うことをしっかり聞いてやりまし

た。やりたいです(峯村亮)

・放水体験をしたのは初めてでした。そんなに重くないと思っただけで、やってみたら振り回されて大変でした。短時間だったけどとても疲れました(細田奈緒子) ・何時もあんな重いホースを振り回しているのはとても力がある仕事

なんだと思えました。とてもいい思い出になりました(坂本奈央) ・自分で実際やって見て、ホースが凄く重く消防

団さんが軽々やっています。いいなと思いました。又凄く疲れました(清水麻由) ・ホースがとても重くて一人ではもてません。恥ずかしかったです(大野有里沙) ・あれだけ重いホースを持って放水をするなんて、すごいなと思いました(高柳智之) ・防火服が凄く重かったです。凄い勢いで水が出てくるのでビックリしました。こんなに大変な作業をやっているなんて凄いなと思いました。

これからも頑張ってください(島田育永) ・まず銀色の服を着て赤いヘルメットをかぶ

りホースを両手に持った時は重く感じました。実際火を消すとしたらかなり大変だなと思っただけで、初めて放水体験をして消防団の人は大変だなと思いました。ホースを持って後ろや横に引つ張られるし火傷しない様に厚い上着を着たりするので大変だと思いました。又けじめがついていてピンバシ動いて凄いなと思いました(青木真帆) ・私は放水体験をして大変な、お仕事をやっていますんだなと思いました。重たいホースをもって火を消しているからです。これからも、私たちの町を守ってください。(嶋崎友香)



子供たちの言葉を背に「消防命」がんばります

こんな活動知っていますか？

● 消火器による消火訓練



消火器に使用期限のある事を
をご存知ですか？



容器の耐用年数は
8年です。
過ぎたら交換を！

このマーク、消火器に付いて
いますか？ 購入の際は、
ご確認くださいね。

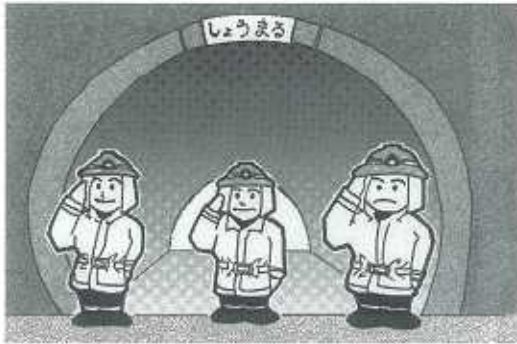
ご家庭にある古くなった消
火器を使用して実際に消火体
験をしていただいています。

都度（企画）

各分団

● 正丸トンネル

埼玉県土木事務所の主催に
よる「国道二九九号正丸トン
ネル防災訓練（車両火災を想
定）」に、埼玉西部広域消防本
部に協力し、飯能消防団本部
ならびに第十分団が、参加し
ています。秩父方面からは、
芦ヶ久保の消防団が同時に実
施しています。



10月

10分団

● フリーマーケット



フリーマーケット等の催し
物にも参加しています。地域
の皆さんとのふれあいを通じ
て消防団の活動に親しみをも
って頂けたらたいへん嬉しい
と思います。

10月 美杉台フリマ 6分団

● 運動会

各地で開催される運動会に
必ずといっていいほど出場し
ている消防団。団体として出
ないところでも個人として多
数参加。あなたの隣のあの人
も消防団員？

● 警備

お祭り・盆踊り・花火大会
などの人が集まる催し物には
つきものの警備。よく子供達
から「おまわりさん？」と誤
解を受けている私達。
また、一年を通して市内全域
の巡回をしております。



1月 初詣

| | | |
|----|--------|-----|
| 1月 | 毘沙門様 | 6分団 |
| 1月 | 奥武蔵駅伝 | 全団 |
| 2月 | 加治駅伝 | 6分団 |
| 3月 | 天神祭り | 1分団 |
| 3月 | ゆずりは祭り | 6分団 |
| 4月 | 畑神社例大祭 | 5分団 |
| 4月 | 白髪神社祭礼 | 6分団 |
| 4月 | 白髪神社祭礼 | 8分団 |
| 4月 | 東神社祭礼 | 9分団 |

| | | |
|----|--------|-----|
| 5月 | 赤城神社祭礼 | 6分団 |
| 7月 | 夏祭り | 1分団 |
| | | 2分団 |
| | | 3分団 |

| | | |
|-----|---------|--------|
| 7月 | 八坂神社例大祭 | 5分団 |
| 7月 | 双柳神社例大祭 | 7分団 |
| 8月 | 盆踊り | 宮本町3分団 |
| | | 二小 |
| | | 4分団 |
| | | 6分団 |
| | | 7分団 |
| | | 7分団 |
| 8月 | 神明神社祭礼 | 6分団 |
| 8月 | 妙見様夏祭り | 7分団 |
| 8月 | 八坂神社祭礼 | 8分団 |
| 10月 | 体育祭 | 6分団 |
| | | 8分団 |
| 10月 | 美杉台フリマ | 6分団 |
| 11月 | 統一祭り | 全団 |
| 11月 | 原市場祭り | 8分団 |
| 12月 | 妙見様祭礼 | 7分団 |

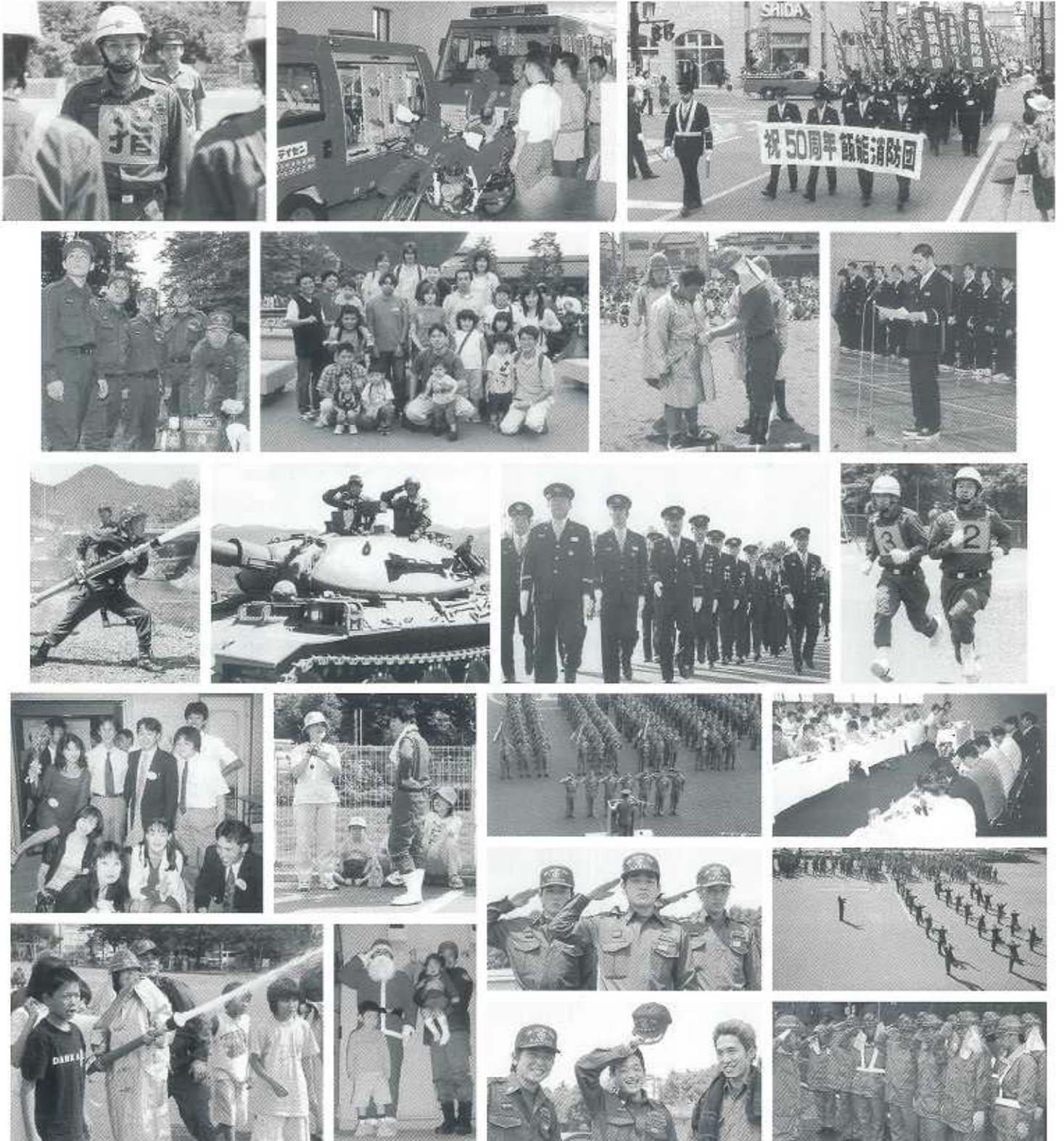


『災害の無い飯能』を目指し、
今後も頑張ります。



かわらばん

第10号



お陰様で「かわらばん」は発行10周年を迎えることができました

飯能団の良さは

入らないとわからない!?

私たち広報委員会では現役の団員が何を思い、そして団の将来をどのように考えているのかを知るため、一一人を無作為に抽出してアンケート調査を実施しました。ほとんどの人が仕方なしに入団したにもかかわらず、入団後は四割の人が積極的に続けていきたいと答えています。それはどうしてなのでしょう?

「なぜ入団したのか?」という質問です。これには、「何度も勧誘されて」、「しょうがなし」、「半ば強制だった」、「騙されて」などという極めて消極的理由が九十八名で全体の八割に達しています。中には「地元に対して貢献したかったから」という奇特な人もいました。他には「友人が入っ

ているから」、「他所から来たので」という答えもありました。次に「イヤイヤ入ったのなら」、「どうして辞めないのか?」と聞きました。これには、「新団員が入ってこない」、「任期内だから」という理由が七十名で約六割を占めました。その次に多いのが「地元で貢献したいから」、「入ったからには責任があるから」などが二十三名、「入ってみたら楽しかった」、「好きだから」、「辞めたくない」などが二十名となりました。

「このことが、「楽しいから」、「貢献したいから」という気持ちで育んでいるのではないのでしょうか。」

「新入団員が入ってこないから辞められない」が一番多い回答ですが、本当に退団したいなら、新入団員の有無にかかわらず辞表を提出するのではないのでしょうか。新入団員がいなくても答えた団員は、組織と仲間を思う責任感のある優しい人とも言えます。



「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

「このことから、新入団員が育んでいるのではないのでしょうか。」

訓練だけじゃないんです

第一分団

原町・前出
中山

毎年研修旅行を開催して団員間の親睦を図っています。ねるとんパーティを開催したところ、めでたくカップルとなり、結婚した団員が我が一分団にいます。今では良きお父さんになり、家族に支えられながら日夜活動しています。

第二分団

一丁白二丁目
柳原・更町

何と言っても真夏のパーベキューでしょう。奥さんや子供たちを交えて和気藹々と楽しんでいきます。もちろん旅行も毎年開催しています。二日間は日頃の訓練を忘れて楽しめます。結束の強さは訓練だけでは決して生まれません。

第三分団

三日月の宮前
大河原・土郷

親睦旅行はゴルフ組と観光組に分かれて趣味の合う者同士でそれぞれに楽しんでいきます。隣接分団と協力して第一小学校で放水を披露し、子供たちにも体験してもらっています。チビッコたちからは尊敬のまなざしで、見つめられ質問され、ちよつと照れくさく恥ずかしいですが、子供好きには最高の行事となっています。

第四分団

第二区・永田
永田台

周りの分団に触発されたわけではありませんが、今年から家族の慰安を兼ねたパーベキュー大会を始めました。これが予想以上に盛り上がり、定例化するのは確実となりました。親睦旅行も口では言い表せないほど楽しく、新入団員は旅行に行つて本物の団員になる、と四分団ではいわれています。訓練は本気、遊びはもつと元気、団長ごめんなさい。

第五分団

南高藤

正直に言いますと訓練以外の活動は大好きで、夏はパーベキュー、冬は忘年会（今年も泊まりにしようかという声も出て……）、そして親睦旅行と、みんなで集まっては楽しんでいます。分団という組織は消防活動だけに留まらず、世代を超えた付き合いを可能にしています。趣味の仲間が増えたり、何かを始めるきっかけになったり、時には仕事が増えることもあるんです。

第六分団

加治

十個分団の中で平均年齢が一番若いだけあって、元気一杯です。親睦旅行、スキーなどを積極的に開催しています。分団対抗ゴルフ大会には精銳を派遣し、常に上位の成績を上げています。加治地区の体育祭では聖火リレーの警備に携わるとともに、消防操法の展示も行っています。地域のお祭りや盆踊りの警備にもついて、地域と密着して活動しています。

第七分団

精明

飯能団の中でサッカーチームを持っている唯一の分団です。練習や試合は訓練のない夜間や休日に行っています。サッカーはチームワークが大切なスポーツです。訓練は真剣に取り組み、サッカーは緊張を解いて楽しむことによつて、分団がさらにまとまっていくな気がします。もちろん年一回の親睦旅行や年々の懇親会もまじめに開催しています。

第八分団

原市場

団員の意見や提案でいろいろな行事を行っています。昨年ねるとんパーティを独身者のために開催したところ、女性の参加者が予想以上に多く、大変盛り上がりました。ある部ではクリスマスに団員がサントに衣装して団員の家にプレゼントを届けます。子供たちは大喜びで歓声を上げてサントを迎えてくれます。仲間を愛し、家族・地域に愛される分団を目指しています。

第九分団

東吉野



年齢層が幅広いのでできる限り意思の疎通を図るようにしています。分団では親睦旅行・パーベキューを開催し独自の広報紙も発行しています。それぞれの部では会食や懇親会を通じ親睦を深め結束を強めています。そのかいあって、今年の分団対抗ゴルフ大会では見事優勝しました。

第十分団

吾野

吾野分署との懇親会をはじめ、年一回研修旅行を開催しています。夏は家族を交えてのパーベキューが好評です。団主催の家族慰安会「デイズニールランドの旅」にも毎年多数の団員家族が出席しています。みんなが楽しみにしています。



